

You, Unlimited

Faculty of

Letters



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
文学部

2026



Master Your Words

#文化財 #源氏物語 #古文書 #哲学
#日本文学 #ウマイヤ朝 #文化遺産
#仏教思想 #考古学 #僧綱制度
#言語学 #親鸞 #古典 #仏画
#カント #戒律 #源氏の武具

すべての基盤となる 「言葉」を学び、 「言葉のプロフェッショナル」へ

言葉によるコミュニケーションは、社会的にもっとも重要な行動のひとつ。

仏教も歴史も言葉を抜きに語ることはできません。

つまり、専門的な学びのすべてに共通してくるのが文学部の学びです。

学問の基盤としての言葉を深く学修すれば、

すべての専門的な学問に通じることも可能です。



Projects #1

▼ 解決をめざす「社会課題」

子どもの学力格差

木戸 千裕さん

哲学科 教育学専攻 3年生
(大阪府 追手門学院大手前高等学校 出身)



銭谷 隼人さん

哲学科 教育学専攻 3年生
(大阪府 浪速高等学校 出身)



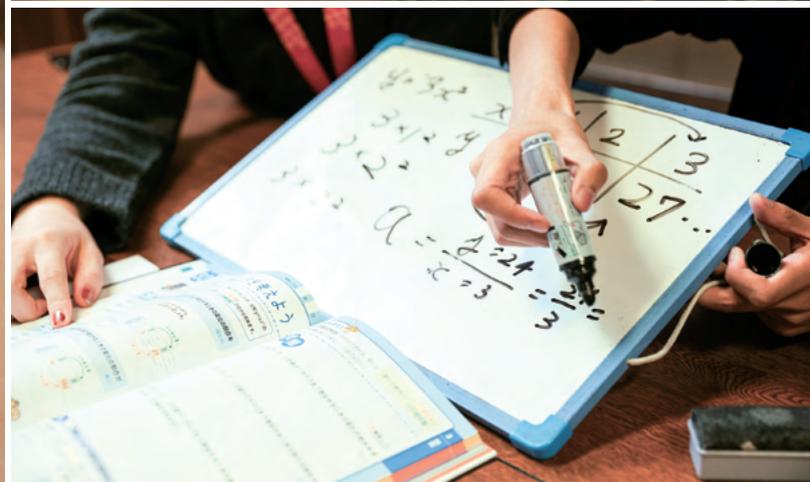
学力格差の改善に向け 学習の機会と居場所を提供する

学習環境が整にくい子どもを対象に 学習支援の取り組みを実践中

哲学科教育学専攻では、時代に適した教育、社会に求められる教育のあり方を追究しています。学外も含めた、さまざまなフィールドでの実践活動を重視しており、有志による町家キャンパスでの活動は、こうした専攻の考え方や特徴を表す取り組みの一つです。近年、「格差社会」ということばに象徴されるように、子どもの学力格差、経験格差が問題となっています。貧困などにより十分な学習機会をえられない子どもは、学習に対する意欲を失い、その後の人生でも不利益を被るリスクが考えられます。こうした状況を踏まえ、学習環境が整にくい家庭の中高生を対象に、学びの機会を提供しようとスタートしたのがこの取り組みです。公益財団法人京都市ユースサービス協会が京都市内18ヶ所で実施している学習支援事業と連携して、毎週木曜日の18時～19時半の1時間半、学びの支援を行っています。

一人ひとりのペースにあわせて伴走し 心地の良い「第三の居場所」を整える

現在は、中学・高校生が参加しており、学習環境の整備や子どもたちが学びに向かう姿勢をもつための工夫を絶えず実践しています。ただし、同じ子どもでも、来週のテストに向けて勉強したいというときもあれば、ただ話をしたいという日もあり、勉強を強要することはありません。「今日は何をする？」と子どもに尋ね、一人ひとりのペースにあわせて伴走しながら、できていることは褒め、苦手を克服して得意なことを伸ばしていくのが基本姿勢です。年上の大学生として勉強を教えますが、一緒に考えたり、得意な子どもに教えてもらったりする場合も珍しくありません。また、家でもない、学校でもない「第三の居場所」として、町家キャンパスが子どもたちにとって居心地の良い場所となることも重視しています。夏祭りやハロウィンイベントなど、学生が主体になって季節ごとのさまざまなイベントを実施しているのも特徴です。



活動を通して子どもたちの現状を知り 対策の必要性を強く感じた

この活動を始めて、教師が多くの児童・生徒に対応する必要がある学校での学習では、しっかり理解することが難しい子どもが一定数いることを実感しました。勉強についていけないことで、学校の居心地が良くないと感じている場合もあり、家庭の事情などにより塾など学習の機会を整えにくい子どもの学習支援の必要性を強く感じています。また、そうした子どもたちには、学校、家庭とは異なる第三の居場所の提供が必要だということも、教科書からではなく実体験として学べました。勉強を強要されることなく、親や家族にうるさくいわれることもない、自分が自分らしくいられる場所、自分を認めてもらえる場所の存在が、子どもたちの安心感につながるのではないかと考えます。夏祭りでは、竹を切って庭で流しそめんを楽しみました。これまで流しそめんをやったことがないという子どももあり、歴然とした体験格差があることも実感できました。

教育のあり方について考えが深化 活動の門戸をさらに広げていきたい

社会課題については、資料などを通して知ることができますが、実際に直面しないと見えてこない視点や考え方も多くあります。この取り組みを通して、学力格差、体験格差など子どもを取り巻く問題に直接触れたことで、教育の重要性、教育のあり方についてより深く考えられるようになったと思います。将来、教師など子どもとかわる仕事に就いた際には、一人ひとり異なる問題を抱えた子どもとかわることになるでしょう。そうした際に、活動を通して得た知識や経験をもとに、より柔軟な対応ができるのではないかと考えています。学習機会や第三の居場所を必要としている子どもは、まだまだたくさんいると思います。デリケートな課題でもあり、積極的なPRは難しい部分もありますが、活動母体の伏見青少年活動センターと連携を取りながら、参加する大学生にとっても良い経験となるように、門戸を広げていければと考えています。

Projects #2

▼解決をめざす「社会課題」

文化財の存在と価値の普及

平田 凌大さん

歴史学科 文化遺産学専攻 4年生
(大阪府 大阪桐蔭高等学校 出身)



「十二月展」という 晴れの舞台で 学生の思いが紡ぐ 伝統と未来

伝統と創造が織りなす 龍谷大学の学びの集大成

文学部の博物館学芸員課程では、毎年12月に「十二月展」という特別な展覧会を開催しています。45年という長い歴史をもつこの展覧会は、学芸員をめざす私たち学生が主体となってテーマの決定から史料の調査、準備、展示作業、会期中の接客まで、企画運営のすべてを担う、まさに4年間の学びの集大成といえる取り組みです。過去には「わざわい」や「天体」などの身近な事象を取り上げ、人とのつながりに焦点を当てた展覧会を開催してきました。そうした背景を受け、45回目となる2024年度の展覧会は「幻～架空の生き物に込めた人々の想い～」をテーマに選びました。古くから各地に伝わる架空の生き物たちの伝説が、その土地の文化のなかでどのように形づくられ、変遷してきたのかを、史料の展示によって解き明かしていきます。私たちに丁寧に工夫を凝らした数々の展示品をとおして、来場者の方々に幻想的な世界へと誘います。

四つの視点から読み解く 人々の想いと文化の景色

「十二月展」の展示は、例年4つの章で構成されています。これまでの慣習にならい、私たち4年生が中心となって話し合いを重ねた結果、今回は「海」「空」「山」「都」という4つの切り口から、それぞれの空間に登場する架空の生き物たちを通じて、当時を生きた人々の想いや文化的背景に迫ることにしました。展示の準備は、参加する多数の学生が互いに協力しながら進めます。テーマの選定からはじまり、展示品の調査や選定、所蔵機関への貸出交渉、展示空間の設計、図録の制作、関連イベントの企画、さらには広報活動まで、実際の学芸員と同じように多岐にわたる業務を担当しました。特に大変だったのは、各班やグループのリーダーによる情報共有と作業工程の確認です。集団で一体となって展覧会をつくりあげるには、全体の把握と協力体制が欠かせません。また、展示品の搬入や展示作業では、文化財を安全に取り扱うための知識と技術も試されました。



伝説の継承から見える 文化財の価値と普及の使命

この展覧会の取り組みで、私たちは文化財保護という重要な社会課題に向き合うことになりました。現代の日本では、博物館・美術館離れが進んでおり、なかでも若年層に対して貴重な文化財の価値を伝えることが困難になっています。しかし、文化財を保護し後世に伝えていくためには、修復や保存の技術だけでなく、その価値を広く周知し、一人でも多くの人に知ってもらうことが不可欠なのです。どうすれば文化財に興味をもってもらえるか。文化財の普及啓発に努める博物館や美術館にいかにか足を運んでもらうか。私たちの展覧会は、文化財の「存在」と「価値」を世間の人々に理解してもらう方法を模索する、実験的な役割も担っていると考えます。展示方法の工夫や関連イベントの開催などをとおして、より多くの人、なかでも若い世代に博物館や文化財に興味をもってもらえるよう、仲間間で知恵を出し合い、さまざまな工夫を凝らしています。

文化を伝える架け橋として 過去と今、未来をつなぐ

今回の博物館実習は、私にとって成長の糧となっていると感じます。展覧会の企画・運営に携わり、学芸員に必要な専門的知識や技術はもちろん、同じ目標に向けて互いに助け合うチームワークの重要性や、目的を達成するための術も深く学ぶことができました。時には葛藤やすれ違いもありますが、妥協点を探りながら解決策を見出していき、その過程にも大きな学びがあります。また、今年のテーマである「幻」をとおして、地域に根ざした文化の多様性、それを今に伝える方法についても実践的に学び続けています。来場いただく方々に文化財の魅力を確実に伝えられるよう、準備を重ねているところです。こうした経験は、博物館学芸員として活動する将来への大きな財産となるに違いありません。文化財を介して過去と現在、そして未来をつなぐ架け橋である学芸員の使命を理解し、その実現に向けて今後も全力で取り組んでいきます。

Projects #3

▼解決をめざす「社会課題」

人文科学の価値の低下

友岡 青慈さん

真宗学科1年生
(東京都立小岩高等学校 出身)



戸川 友作さん

仏教学科1年生
(鹿島学園高等学校 出身)



「PBL入門」の授業を通して学びの本質を見つめ直す 社会課題解決への新たな視点と 自己理解からはじまる気づきの価値

文学部で学ぶ意義を探り 人文科学の可能性を見出す

「文学部の学びは社会にどう役立つのか」。PBL入門は、この根源的な問いに向き合うことから始まります。現代社会は、自然科学と比べて人文科学の価値が過小評価される傾向にあります。この授業では、人間がより深く、より豊かに生きていくためには、哲学や歴史、宗教などの人文科学がいかに重要であるかを改めて認識できます。また、グループワークにより、文学部の学びは個人戦ではなく、互いの視点や考えを共有し、高め合うことで深まっていくのだと実感しました。さらに学部長の講話を通じて、龍谷大学は「文」を通じた学びの可能性を追求する場であると強く認識しました。今後は、人文科学の知見を社会に広く伝えていくことを意識したいと思います。そのためにも、まず自分自身が人文科学の本質を理解し、その価値を体現する必要があるでしょう。文学部の学びを通じて、より多くの人々に人文科学の魅力と可能性を伝えていきたいです。(友岡さん)

社会課題の解決に向けて 文学の学びを自らの糧に

異文化理解、環境問題、紛争など、現代社会が直面する課題は複雑化しています。PBL入門では、文学部での学びがこれらの課題にどのように貢献できるかを探究していきます。ブレインストーミングやインタビュー調査によって、文学部の各学科がもつ独自の視点や役割を知ると同時に、自分自身の立ち位置も見つめ直すことができました。最も大きな気づきは、学問と実践の関係性です。当初は専門的な思想や考えを単に現代社会に应用することをめざしていましたが、その間に「自分」という存在があると気づきました。学びは自分の内面を通過することで、社会に対する共感と意志を高め、より意義のある研究や実践につながっていくのです。文学部での学びは最終的に、深い自己理解へとつながります。それは単なる自己満足に終わるものではありません。過去の思想を現代の文脈に当てはめ、社会課題の解決に向けた思考を深めていきたいと考えています。(戸川さん)





自分事としてとらえることが ごみ問題解決への第一歩に

PBL演習では、行政への聞き取りや自己調査をとおして、オーバーツーリズムによる京都の観光課題の解決に挑みます。自ら洗い出した諸問題を学生視点から見つめ直し、自分たちの見解を周知して他の学生にも当事者意識をもってもらうことが目標です。調査を進めるなかで私が興味をもったのは、観光によって増加している京都のごみ問題でした。この問題に着目して気づいたのは、市民・行政・企業間連携の重要性です。例えば、行政が一方的にルールを定めたとしても、市民と企業の協力がなければ解決への一歩を踏み出すことはできません。市民の暮らしに直接的な影響を与えていることを理解し、早急に取り組むべき問題なのです。PBL演習に参加するまで、私自身オーバーツーリズムの問題を深く考えたことはありませんでした。どこか他人事であったごみ問題を普段から意識するようになったのも、この演習を履修したからこそその成長だと実感しています。

多様な切り口でごみ問題を調査し 根本的な解決策を導き出す

観光客の増加にともなうごみ問題は、京都の景観を乱し、地域住民にとっても大きな負担となっています。私たちはPBL演習をとおして、そうしたごみ問題の実態に目を向けました。前期は、ごみの減量に対する自治体の取り組みを個人で調査し、その結果を発表しました。現在はグループでごみの減量化を推進している団体へのインタビューを計画し、より具体的な課題や減量化に向けた先進的な取り組みなど、ごみ問題の現状を自分たちなりにまとめ、大学のウェブマガジンに掲載する予定です。今回の調査で新たにわかったのは、ごみ箱の設置にもメリットとデメリットが存在するという事です。ごみ箱を増やすという単純な方法でなく、食べ歩き容器を持ち帰りたくなるデザインのものに変えるなど、ごみにならない工夫こそがごみの減量化につながるのです。以前は無関心だった社会問題にも、自分なりの意見や解決策を考えられるようになりました。

Projects # 4

解決をめざす「社会課題」▼

オーバーツーリズムによる諸問題

出島 奨さん

歴史学科 文化遺産学専攻 3年生
(大阪府立狭山高等学校 出身)

栗本 夏緒さん

日本語日本文学科 3年生
(奈良県立高田高等学校 出身)

観光都市 京都に潜むオーバーツーリズムの諸問題
学生ならではの視点から本質的な問題を探る

Hot Topics

文学部の取り組み

1 重要文化財に指定された建物で、
歴史を体感しながら学ぶ



2 充実した学修施設

深草キャンパス・大宮キャンパスともに、学生同士の交流や学びを促進・創造するスペースが充実しています。個別学修からグループ学修まで幅広い形で、学生の主体的な学びを支援しています。

多様な学びの空間「ラーニングcommons」

深草キャンパス



大宮キャンパス



3 最新の機器を備えた「文化財科学室」

文化財科学室には、電子顕微鏡やX線透過装置をはじめとする最新の分析機器が設置され、「文化財の臨床医」に必要な基礎を学びます。フィールド調査が可能な機器も数多く揃えられており、現場での実践的な調査方法も学べます。



文化財科学室



光学顕微鏡



マイクロスコープ



携帯型分析機器

4 歴史的な一級資料が揃う国内有数の学びの「宝庫」

龍谷大学は国宝や重要文化財に指定されている貴重な資料や書物、特別書を多数所有しています。隣接する大宮図書館は、国宝『類聚古集』や世界最古級の世界地図『混一疆理歴代国都之図』、奈良絵本『竹取物語』、『解体新書』などを所蔵しています。第一級の史資料を数多く所蔵する本学は、学生にとって本物に触れられる「宝庫」です。



奈良絵本『竹取物語』



『解体新書』初版本



『釈迦御一代記図会』



英文版反省会雑誌『The Hansei Zasshi』



『地獄・極楽図絵幅』

4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

バラエティに富んだ6学科6専攻の学び

真宗・ 仏教学	真宗学科 教理史コース 教義学コース 教学史コース 伝道学コース 現代に至る真宗教学の展開を辿る。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（宗教）● 高等学校教諭一種免許状（宗教）	仏教学科 仏教と文化コース 仏教と現代コース 人々を魅了し続けた「仏の教え」を、本物の資料をとおして学ぶ。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（宗教）● 高等学校教諭一種免許状（宗教）
哲学・ 教育学	哲学科 哲学専攻 哲学者たちの思考の軌跡と、自らの考えを論理的に表現する方法を幅広く学ぶ。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（社会）● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）	哲学科 教育学専攻 総合的な人間学を研究のベースとし、教育学を専門的に学修・研究する。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（社会）● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）
歴史学	歴史学科 日本史学専攻 古代 中世 近世 近代 現代 独自の視点から歴史事実を解明し、社会や自分の生き方についても考える。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（社会）● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 歴史学科 東洋史学専攻 漢字文化圏からイスラーム文化圏まで、アジアの歴史・文化を学び、研究を深める。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（社会）● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）	歴史学科 仏教史学専攻 仏教の歴史を知ることによって人間とは？ 仏教とは？ という本質的な問いを探究する。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（社会）● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 歴史学科 文化遺産学専攻 現代まで引き継がれてきた文化遺産を分析・研究し、将来に残して活用する技術と方法を実践的に修得する。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（社会）● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
文学・ 言語学	日本語日本文学科 古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース 豊かな言語感覚や感受性、論理的思考能力を磨き、「ことばのプロ」を育成する。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（国語）● 高等学校教諭一種免許状（国語）	英語英米文学科 英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース 実践的な英語力を身につけ、言語学、文学、文化を専門的に学ぶ。 <ul style="list-style-type: none">● 中学校教諭一種免許状（英語）● 高等学校教諭一種免許状（英語）

幅広い学問領域を横断して学修できるオーダーメイド型カリキュラム

自分の興味にあわせて学科・専攻の境目なく、さまざまな科目を体系的に履修できます

文学部では、真宗・仏教学、哲学・教育学、歴史学、文学・言語学を学ぶ6学科6専攻を設け、それぞれの学問領域を系統的に学修できるよう、1年生から専門的な科目も配置するなど、体系的なカリキュラムを展開しています。また、自分の興味・関心にあわせて学科・専攻の枠を超えて学べるオーダー

メイド型カリキュラムを導入し、自分の学科・専攻以外の科目を自由に選び、学修することも可能です。文学部での4年間の学びで、本学が所蔵する貴重な文献・資料なども活用しながら、幅広い教養と各学科・専攻の専門分野に関する深い知見を修得し、多面的・総合的な人間理解をめざします。

	1年次	2年次	3年次	4年次		
4年間の流れ	基礎的なリテラシーを修得	専門的な学修へ	「問い」の発見をめざす	卒業論文をまとめあげる		
						
アカデミックリテラシー 4年間を通して身につける	読む力 語学力を活かし、難解な用語と格闘しながら専門文献を読む経験を重ねます。文献上の情報を正確に読み解く力を養い、知識を有機的に蓄積していきます。	調べる力 研究課題に必要な文献資料を収集・整理するだけでなく、学外のフィールドワークに参加したり、海外に留学して調査を行ったりします。	考える力 文献・データを客観的かつ批判的に読解・分析しながら、創造性のある考察ができるよう、徹底的に考え抜きます。	書く力・発信する力 論文の書き方、プレゼンテーション・スキルを鍛え、伝える力を養います。	議論する力 ゼミの先生・仲間は、良き理解者であり、越えるべき壁にもなります。自分の研究成果を高めるための議論は白熱必至。文字どおり“切磋琢磨”です。	卒業論文
教養科目	仏教の思想・外国語科目・教養科目					
専攻科目	基礎演習	普通講義	演習Ⅰ 講読 特殊講義	演習Ⅱ / 卒業論文		

オーダーメイド型カリキュラムの例

例1：美術を手掛かりに文化遺産の歴史と文化を学びたい

歴史学科文化遺産学専攻 専攻科目

+

- 仏教学科 仏教美術入門A
- 歴史学科日本史学専攻 古文書学A
- 歴史学科東洋史学専攻 美術史(アジア)B

例2：日本と外国の文学・歴史を比較し、日本文学の学びを深めたい

日本語日本文学科 専攻科目

+

- 歴史学科日本史学専攻 日本史概説ⅠA
- 歴史学科東洋史学専攻 中国文化史Ⅰ
- 英語英米文学科 英語圏文学概論A

例3：仏教について多様な切り口で学びたい

仏教学科 専攻科目

+

- 哲学科哲学専攻 宗教学概説A
- 歴史学科文化遺産学専攻 文化遺産学概論B
- 日本語日本文学科 仏教文学A

真宗学科

Department of Shin Buddhism

教員・
スタッフ紹介



現代に至る真宗教学の展開を辿る

Focus 学びのポイント

親鸞の教えを通じて、人間として
“生きる”ことの真の意味を探究

新しい時代のニーズに応え、
積極的な国際文化交流活動を展開

ゼミを中心に、教員と学生が
一体となって学び合う環境を整備

4つの専門コースで、現代社会で活かせる“人間理解力”を修得

- 教理史コース** 親鸞思想の背景にある浄土思想を歴史学の視点から学ぶ。
- 教義学コース** 親鸞の教えそのものを学び、宗教人としての人格形成を図る。
- 教学史コース** 親鸞の思想がどのように継承・展開されたかを考える。
- 伝道学コース** 親鸞の思想を現代社会のなかでどのように活かしていくかを考える。

[講義紹介]

真宗学概論 A1・A2

親鸞教義の全体像を把握することをめざす。

真宗学の世界 A・B

真宗学科の各教員が真宗学の魅力について語る。

伝道学特殊講義 A1

仏教と医療との連携・協働について考える。

真宗学基礎演習 I A・I B

真宗教義の基礎的な理解や知識の修得をめざす。

Seminars ゼミ紹介

真宗学科 内田 准心 ゼミ

親鸞の教えの継承

現代に生きる親鸞の教えを探究する

浄土真宗の伝道について「親鸞聖人の手紙」や「現在の真宗伝道」に関する論文を読み解いて考察を重ねています。多様な伝道のあり方を学び、それらが親鸞聖人の教えと照らし合わせて適切かを常に問い直しています。ゼミ活動を通じて、論文の内容を鵜呑みにせず、データの適切性や解釈の妥当性を丁寧に検証する姿勢が身につきました。先生の豊富な知識によるサポートと意欲的なゼミ生との議論のおかげで、集中して研究に取り組んでいます。



梅高 弘導さん

真宗学科 3年生
(大分県立中津南高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 蓮如上人の『御文章』を読む
- 和語聖教を中心に親鸞思想を考える
- 親鸞教義の普遍性と特殊性
- 覚如教学と親鸞教義
- ビハーラ活動に学ぶ
- 伝道の現場から出る質問にどう答えるか
- 善導・法然における念仏思想の研究
- 真宗伝道と「習俗・俗信」をめぐる課題
- 曇鸞浄土教を考える
- 『顕浄土真実教行証文類』の研究

仏教学科

Department of Buddhist Studies

教員・
スタッフ紹介



人々を魅了し続けた「仏の教え」を、
本物の資料をとおして学ぶ

Focus 学びのポイント

アジア各地の仏教の思想と文化を
幅広い視点から追究

仏教の思想から
現代の社会課題にアプローチ

文化財やデジタル技術をとおして学ぶ
さまざまな講座を開講

「仏教と文化」「仏教と現代」をキーワードに2コースを設置

仏教と文化コース 各地域の仏教と文化を広く深く学ぶ。

仏教と現代コース 仏教と現代の社会課題を広く深く学ぶ。

[講義紹介]

仏教学基礎演習A・B

大学生や社会人に必要なスキル「聞く力」「考える力」「議論する力」「調べる力」「読む力」「書く力」を基礎から学び、修得をめざす。

仏教文化入門

仏教が世界各地の美術、建築、文学、そして生活文化に与えた影響を学び、仏教文化研究の基礎となる知識を身につける。

現代仏教入門

世界各地における仏教の現状と、社会課題への取り組みを学び、仏教の現代的意義を探究するための基礎を築く。

仏教と日本の文化A・B

修験道の修行実習や仏像制作のワークショップをとおして、体験に裏付けされた見方や理解を修得することを目的とする。

Seminars ゼミ紹介

仏教学科 西山 良慶 ゼミ

現代人が抱える精神的な苦悩

仏教思想から現代人の苦悩の解を探る

物事への執着や精神的な苦悩に悩む現代人に向き合うため、「仏道実践の諸相」について研究を進めています。修行者たちの仏道実践の内実を知り、その過酷さに驚かされる一方で、現代人の精神的苦悩との共通点が見えてきました。比叡山延暦寺での実地見学は、仏道への理解を深める貴重な機会となりました。卒業論文では「補陀落渡海」をテーマとし、執着からの解放という教えが、現代人の生き方にどのような示唆を与えるのかを探っていきます。



津村 緒利香さん

仏教学科 3年生
(鳥取県立倉吉東高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 仏教文化の諸相に学ぶ
- 日本仏教探究
- インド学・仏教学の諸問題
- 東アジアにおける仏教思想・文化の諸問題
- 漢文文献を用いた仏教教学の諸問題
- 仏教文化の諸問題
- 仏教の諸相
- 日本仏教の研究
- 仏教思想の諸問題
- 東アジア仏教における戒律思想ならびに文化についての諸問題

哲学科 哲学専攻

Department of Philosophy, Philosophy Course

教員・
スタッフ紹介



哲学者たちの思考の軌跡と、自らの考えを
論理的に表現する方法を幅広く学ぶ

Focus 学びのポイント

あらゆる偏見・独断・権威から
自由になって考える

人は何を求め、考えてきたかを
先人から幅広く学ぶ

社会で活かせる物事の見え方や
表現力を身につける

対話を通じて人と人のつながりを
深める力を養う

[講義紹介]

哲学概論

哲学の多様な諸問題について、自分
自身で考察する力を養う。

倫理学概論

倫理学の重要な諸問題を取り上げ、さ
まざまな角度から理論的に考察する。

社会哲学

社会思想史を、時代背景と政治史との
連関のなかで理解することをめざす。

美学概説

美と藝術をめぐる思想を考察し、その
思想を現代において深める機会を提供
する。

Seminars ゼミ紹介

哲学科 哲学専攻 松田 克進 ゼミ

生命操作技術の進歩と生命倫理

哲学的思考で探る生命倫理の新たな指針

個人の権利と共同体の道徳的価値観の対立から、近年クローン技術や代理出産などの新たな課題が生まれています。生命操作技術の発展によって生まれる倫理的課題に興味をもち「サンデルのロールズ批判と生命倫理」について研究を進めています。理性に基づく生命倫理とは何なのか。卒業論文では、カントの啓蒙を出発点とした理性に焦点を当て、技術発展が進む現代社会におけるより良い生命倫理のあり方を探っていきたくと考えています。



中川 綾女さん

哲学科 哲学専攻 3年生
(大阪府 桃山学院高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 古代哲学—哲学のはじまり—
- 中世哲学—神との対話—
- 近代哲学—理性と経験—
- 科学哲学—哲学と科学の方法論的差異—
- 芸術哲学—美の意味を考える—
- 宗教哲学—神という謎—
- 政治哲学—社会契約説の系譜—
- 生命倫理学—動物に生存権はあるのか—
- 日本の哲学における主観と客観の問題
- 現代フランス思想における主体性の問題
- 現代認識論における知識の基礎づけの問題
- 現代リベラリズム(自由主義)とその批判

哲学科 教育学専攻

Department of Philosophy, Education Course

教員・
スタッフ紹介



総合的な人間学を研究のベースとし、
教育学を専門的に学修・研究する

Focus 学びのポイント

変化の激しい時代における
教育のあり方を多角的に追究

社会と個人の両面から教育について
専門的に学ぶ

学校や社会教育施設なども含めた
さまざまなフィールドでの実践を重視

小学校[※]・中学校・高等学校教員などの
幅広い資格取得に対応

※小学校教諭免許状取得支援制度による取得

[講義紹介]

教育学演習Ⅰ A・Ⅰ B

1・2年次での学びにもとづき、指導
教員のもとで各自が卒業論文で扱う
研究テーマを探究していく。

教育学基礎演習Ⅱ A・Ⅱ B

教育について深く学び研究するた
めの基礎的な力を身につける。

人間科学概論

人の心の仕組みや機能について教育や
社会とのかかわりを考えながら探究し
ていく。

比較教育学

諸外国の教育実態から教育の普遍性
や多様性を見出す。

Seminars ゼミ紹介

哲学科 教育学専攻 亀口 まか ゼミ

教育現場における課題

学び続ける力を育む教育のあり方を考察

教育の歴史やジェンダーの視点から教育課題を考えるゼミで学んでいます。教師でありながら学びを継続する恩師との出会いにより「生涯学び続ける力」の重要性に気づき、その解決策として地域と学校の連携に着目しました。社会科教育を通じて、子どもたちが地域の人々とかかわり、実社会の課題を考える機会をつくることで、主体的な学びの基盤を築けると考えています。将来は中学校教員として子どもの学びを支えていきたいです。



小谷 颯輝さん

哲学科 教育学専攻 4年生
(兵庫県立明石高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 教育についての歴史的理解
- 学校外の場における学び
- ジェンダーと教育の関連
- 日韓の教育比較
- 海外の教育実践について
- 格差と教育の関連
- 記憶の個人差
- 青年期の人格形成についての社会学的考察
- ステレオタイプに関する社会学的考察
- 新たな教育方法に関する効果の研究

歴史学科 日本史学専攻

教員・
スタッフ紹介



Department of History, Japanese History Course

従来の研究に学びつつ、自分なりの問いから歴史事実を究明し、
未来を造る主体として今を生きる

Focus 学びのポイント

新しい歴史像の構築と
人間性の探究

世界史的な視野をもち、
日本の歴史を考察

古代・中世・近世・近代・現代の
5つの切り口

学内外の史料や史跡などを
最大限に活用

[講義紹介]

日本史学基礎演習ⅠA・ⅠB

日本史学研究の基礎的な知識・方法
などを修得する。

古文書学入門

歴史事実を証明するための文書の読
解の基礎を学ぶ。

日本史学特殊講義

各分野の専門的研究から方法・史料
について学ぶ。

日本史学演習Ⅰ

3年生のゼミで、各人が設定した課
題について報告する。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 日本史学専攻 吉田 賢司 ゼミ

歴史認識と史実の継承

多視点からの考察で歴史の真実に迫る

歴史研究者でもあった高校時代の恩師に日本史の奥深さを教えていただき、ゼミで中世史への学びを深めています。古文書の解読を通じて史料を多角的に読み解く力を養うなかで、先行研究を鵜呑みにせず、自分で史料の意味を解釈、思考する能力が身につきました。卒業論文では鎌倉時代の源氏由来の武具が現代まで継承された過程に着目し、ゼミで培った史料解読力と多角的な分析方法を活かしながら、各時代の特徴を読み解いています。



小笠原 実咲さん

歴史学科 日本史学専攻 3年生
(愛媛県立松山西中等教育学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 古代歴史書における「帰化」表現
- 承和の変の再検討
- 源義朝と関東武士団の関係
- 南北朝初期における所務沙汰の特質

- 近世初期の久我家と源氏長者
- 近世壱田における湖上権益
- 近藤勇における内憂外患と攘夷論
- 明治・大正期におけるアイヌ民族の信仰

- 濱口雄幸の政党政治観
- 婦人参政権獲得運動と治安警察法

※過去の卒業論文タイトルより

歴史学科 東洋史学専攻

教員・
スタッフ紹介



Department of History, Asian History Course

漢字文化圏からイスラーム文化圏まで、
アジアの歴史・文化を学び、研究を深める

Focus 学びのポイント

東アジアからイスラーム文化圏まで、
広大な地域の歴史を研究

段階的なカリキュラムで目標へ
確実にステップアップ

諸外国の研究機関と学术交流や
留学を活発に展開

語学修得から研究会参加まで
全面的にバックアップ

[講義紹介]

東洋史学基礎演習 I

「史料を読む」という研究の基礎作業
に取り組みながら、東洋史学研究的の基
礎を学ぶ。

東洋史概説 I

中国世界、さらには東部ユーラシア世
界という視点から中国史を見直す。

東洋史学講読 (B)

アラビア語の文字と基本的な文法を修
得し、アラビア語で書かれた史料を講
読する。

東洋史学講読 (C) B

近世ペルシア語で書かれた史料を読み、
イランの歴史と文化への理解を深める。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 東洋史学専攻 近藤 真美 ゼミ

人類の共存

歴史を読み解くことで見えてくる現代への問い

高校で学んだ世界史をきっかけに西アジア史に興味をもち、イスラーム、キリスト教、ユダヤ教が交差した後ウマイヤ朝について研究するようになりました。多様な住民がどのように影響し合い、共存していたのか。書かれている内容を鵜呑みにせず、常に疑問をもちながら、先人による研究の成果や、研究の根拠となる史料を読み進めています。この問題の解明は、異文化共生が課題となっている現代社会にも重要な示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。



石川 香月さん

歴史学科 東洋史学専攻 3年生
(大阪府立泉陽高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 前漢末の終末意識と王莽の禅譲
- 曹操とその時代
- 隋唐時代におけるソグド人とその活動について
- 宋元時期の海上貿易について
- 清入関前の八旗制について
- 北方民族と中国食文化の変容——契丹・女真・モンゴルとの交流から——
- チンギス・カンと中央ユーラシアの商業ネットワーク
- ヴィジャヤナガル王国トゥルヴァ朝期のナーヤカについて
——アーンドラ地方南部において——
- マムルーク朝後期におけるワクフの活用と宗教施設について
- デリー・サルタナット期におけるスーフィー教団と政権との関わりについて

※過去の卒業論文タイトルより

歴史学科 仏教史学専攻

教員・
スタッフ紹介



Department of History, Buddhist History Course

仏教の歴史を知ることによって人間とは？ 仏教とは？
という本質的な問いを探究する

Focus 学びのポイント

仏教をひもとき、現代・将来における役割と
可能性を考える

政治・思想・言語・美術など、
多角的なアプローチで理解する

京都の地の利を最大限に活かした
調査・研究活動を展開

広い視野で“自分らしい生き方”を
考えられる教養と人格を育成

[講義紹介]

仏教史学入門

仏教史を学んでいくうえでの基本的な
知識を修得する。

仏教美術史

仏画・仏像・寺院建築などの観方につ
て学ぶ。

西域仏教史

インドで成立した仏教が中央アジアに
展開していく過程を学ぶ。

真宗史

親鸞から現代に至るまでの浄土真宗の
歩みを歴史的に考察する。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 仏教史学専攻 北畠 浄光 ゼミ

仏教と現代社会の関係性

仏教史から読み解く僧綱制度の変遷

平安時代前期の僧綱制度を研究対象にしています。仏教文化が開花した京都で学べる仏教史学に独自性を感じ、この分野を選びました。僧綱制度のなかでも、貞観期に定員を超えて僧綱の数が増加した現象に着目して検証を進めています。古文書や先行研究を読み解くうちに、同じ史料でも時代や研究者によって異なる解釈が存在すると知り、その違いを比較検討するおもしろさを実感しています。新たな視点から、仏教界の変化と社会変動との関係性に迫ります。



射場 誠さん

歴史学科 仏教史学専攻 4年生
(大阪府立吹田東高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 僧尼令からみる日本古代の社会と仏教
— 飲酒条を手がかりに—
- 行基の思想基盤について
- 蓮如の教説と一向一揆
- 池田光政の宗教政策と備前法華
- 本願寺教団の護法論とその展開— 島地黙雷を中心に—
- 井上秀天の近代天皇制への視座— 『新仏教』誌上の論説を中心に—
- 梁武帝「断酒肉食」にみる六朝士大夫の仏教信仰
- 舍衛城の神変に関する一考察
— 千仏化現表現を中心に—
- 『三界経』とタイ仏教王権
- アンベードカルと不可触民解放運動

※過去の卒業論文タイトルより

歴史学科 文化遺産学専攻

教員・
スタッフ紹介



Department of History, The Science of Cultural Heritage Course

現代まで引き継がれてきた文化遺産を分析・研究し、
将来に残して活用する技術と方法を実践的に修得する

Focus 学びのポイント

「物(もの)」から「学ぶ」/
考古・典籍・絵画など実物から学ぶ

「物(もの)」を「残す」/
最先端の機器で分析し
保存・修復の方法を考える

「物(もの)」を「活かす」/
文化遺産の積極的な活用方法を学ぶ

「物(もの)」を「体感する」/
遺跡や寺院などの
フィールドワークをとおして実践的に学ぶ

[講義紹介]

文化遺産学概論

文化遺産とは何か? その特徴と守り・伝える意義を学ぶ。

文化遺産学演習Ⅰ

考古学・美術史・保存修復学・文化財行政学の4分野のゼミから研究テーマの学びを深める。

考古学実習

遺跡や出土品から考古学の実践的技術と分析方法を学ぶ。

文化財実習

文化遺産学に用いる調査機器やソフトのつかい方を実践で学ぶ。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 文化遺産学専攻 北野 信彦 ゼミ

文化遺産の確実な保存と継承

最先端の科学で解き明かす文化財の歴史

中高時代の歴史の授業をとおして文化財に興味をもったことをきっかけに文化遺産学の道を選び、現在は文化遺産の塗装彩色材料を科学的に分析しています。現在取り組んでいる調査では、科学機器を用いた分析をとおして、時代によって変化する塗装彩色材料の変遷を明らかにしました。特に文化財科学は文理の垣根を超えた新興分野です。今後は大学院でさらに研究を深め、科学的なアプローチから文化財の保存と継承に貢献していきたいと考えています。



松尾 野々花さん

歴史学科 文化遺産学専攻 4年生
(大阪府 四天王寺高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- サイエンスの力を応用して文化遺産を守り・伝える
- 考古学資料から読み解く歴史像
- 美術作品をとおして日本文化を考える
- 文化財保護の制度と方法を考える

※文化遺産学が関係する分野は多岐にわたります。これは各ゼミ担当教員が学生と取り組んでいる基本分野の一例です。

日本語日本文学科

Department of Japanese Language / Literature

教員・
スタッフ紹介



豊かな言語感覚や感受性、論理的思考能力を磨き、
「ことばのプロ」を育成する

Focus 学びのポイント

学ぶ目的や興味にあわせて選べる4コースを開設

- 古典文学コース** 江戸時代までの古典文学作品を探究する。
- 近代文学コース** 明治時代から現代までの文学作品を探究する。
- 情報出版学コース** 日本文学や演劇のなかの情報・出版文化を探究する。
- 日本語学コース** 現代語や過去の時代の日本語の特徴を探究する。

多彩な授業を組み合わせ、
複眼的な思考を鍛錬

中学校・高等学校教員、出版・広告業など、
将来に備えた実践的な授業も開講

国宝・重要文化財などの古典籍に
親しみながら学修・研究できる

[講義紹介]

日本語日本文学基礎演習 B

日本近代文学研究の方法について学ぶ。

古典文学特殊講義 (D) A

古典文学の写本を読む。

情報出版学概論 B

江戸時代後期の本と芸能を素材に、情報
の拡がりについて学ぶ。

日本語学特殊講義 (B) A

日本語学史のなかでも、特に外国人による
日本語研究について学ぶ。

Seminars ゼミ紹介

日本語日本文学科 高木 彬 ゼミ

多角的な思考の涵養

文学の解釈を深める近現代文学研究

3年生の近代文学ゼミでは、ゼミ生全員が同じ文学作品を読んで議論します。2024年度は稲垣足穂の『星を売る店』を取り上げました。作品に対する注釈や先行研究の分析を通じて、足穂の芸術主義的な側面などが見えてきます。他のゼミ生と議論するなかで、文学作品を多角的にとらえられるようになりました。卒業論文では村上春樹『1973年のピンボール』の比喩表現に着目し、ピンボールと主人公「僕」の心理描写から解釈の可能性を探っていきます。



長屋 心優さん

日本語日本文学科 3年生
(大阪府 相愛高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 『新古今和歌集』の恋歌・雑歌を読む
- 『源氏物語』薄雲巻の研究
- 佐藤春夫『田園の憂鬱』を読む
- 「本」と「ハナシ」の文化史
- 歌舞伎と近世・近代の情報・出版文化について考える
- 近代の文法書を読む

英語英米文学科

教員・
スタッフ紹介



Department of English Language and English / American Literature

実践的な英語力を身につけ、
言語学、文学、文化を専門的に学ぶ

Focus 学びのポイント

英米文学作品を読み解くことをとおして、分析力・議論する力を養う

英語をとおして、ことばの真相に迫る力を育成

実践的な英語コミュニケーション力を修得

交換留学制度が充実

英文学コース

小説や詩などさまざまなテキストを題材にし、読解力や批判力を身につける。

米文学コース

テキストの背景を学び、異文化理解の基礎となる教養を身につける。

英語学コース

英語の音声・語彙・文法・談話など言語的特質を多角的に探究する。

英米文化コース

Investigating Culture in an All-English Environment.

[講義紹介]

英語英米文学基礎演習

3年次のコース選択に向けて、1・2年次に4コースのすべての学びを半期ずつ経験する導入的な基幹科目。

Oral Communication III

An opportunity to develop high-level English language skills for interpersonal communication, debate and public speaking.

英米文学講読

英語圏のテキストや資料を読む際に求められる読解力や批判力、および用語や視点の獲得をめざす。

英語学特殊講義

英語学の専門知識をもとに考察力・分析力を深める。

Seminars ゼミ紹介

英語英米文学科 三宅 一平 ゼミ

女性・人種差別と階級格差

文学作品の奥に潜む時代の声を読み解く

ディズニー映画がきっかけで米文学に魅了され、現在はSF作品を読みすすめています。同じ作品でも読む人によって解釈が異なり、他のゼミ生から出てくる多彩な意見に、毎回驚かされています。シンプルな物語にも時代背景への皮肉が隠されていたり、主題と違うメッセージが込められていたり、作品の奥深さは計り知れません。卒業論文では『塔の上のラプンツェル』を取り上げ、アメリカの時代背景から理想の女性像の変遷を追究していきます。



福田 朱悠さん

英語英米文学科 4年生
(大阪府 上宮高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- ことばの意味とコミュニケーション
- America and Immigration
- American Novels and Poems in the 20th Century
- The Kings and Queens of Britain
- ことばと文化における捉え方
- The Development of British Children
- Disney and the American Movie Industry
- Differences Between British and American Culture
- イギリス小説、詩のメッセージに含まれる現代的な意味を探る

埼玉県立

小鹿野高等学校 勤務

社会科の教員として、歴史総合と日本史探究、地理総合の授業を担当しています。生徒を指導するにあたっては、近代史に焦点を当てたゼミで培った学びの姿勢が活かしているのを実感します。例えば、自ら研究の課題を見つけ出し、解決に向けて思考を重ねた経験は、生徒にどのように課題意識をもたせるかに通じています。また、収集した情報を整理していかによれば相手にうまく伝えられるかを熟考したことも、授業で使うプリント製作に直結する学びでした。1年生の副担任という立場から進路指導にかかわる機会は少ないですが、授業をとおして人生において大切にしたいことを伝えていければと考えています。そのためにも、まずは自らが成長し一人前の教師をめざします。そして、希望する進路に到達した生徒たちの晴れやかな姿を見届けたいと思います。

祐川 明夏さん

歴史学科 日本史学専攻 2024年卒業
(埼玉県 花咲徳栄高等学校 出身)

Life after G



生徒の成長を間近で見ていると、私自身も成長しなければと痛感します。今後も知識と経験を積み重ね、生徒をしっかり支えられる教師になりたいです。

My Background



大学1年生

コロナ禍で対面授業が難しかったため、初めて放課後に友人と話せたあの時の感動は今も忘れません。とても大切な思い出です。



大学2年生

サークル活動の一環で銀閣寺を訪ねました。気の合う後輩との出会いにも恵まれた、貴重な経験でした。



大学3年生

教職自主ゼミの模擬授業で、初めて取り組む実践的な課題の数々に奮闘。同じ道を志す仲間たちの存在が大きな支えになりました。



大学4年生

教育実習で実際に教壇に立ちました。卒業論文の執筆と試験対策の両立は大変でしたが、今となれば良い経験だったと思います。

大阪四季劇場

劇団四季

(社名：四季株式会社)

関西営業部 勤務

劇団四季の観劇を主に学校や企業などの団体へ提案する業務に携わっています。拠点劇場のあるエリアを中心に、一人でも多くの方に舞台の感動をお届けできるよう奔走しています。私が仕事をするうえで大切にしているのは、仏教の考え方です。浄土真宗の寺院に生まれ育った私は、大学で教義学を専攻し、浄土真宗の教義の変遷を追究しました。現代では当たり前の価値観も時代によって大きく異なることを知り、その時代に生きる人のニーズに応える重要性に気づきました。チケットセールスの仕事でも、お客様のニーズに寄り添った提案が大切です。また、浄土真宗の教義と私たちが届ける舞台作品には、「生きる喜び」「人生は素晴らしい」という共通のテーマがあります。この普遍的なメッセージを、舞台芸術を通じてより多くのお客様に届けていきたいです。

raduation

桃園 裕心さん

真宗学科 2024年卒業
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)



自身が感動した劇団四季の舞台の魅力を知っていただきたい。これが私の原点です。お客様に喜んでいただけるよう、最適なプランを提案しています。

My Background



大学1年生

入学当初はコロナが緩和していたものの、授業はオンライン。この頃に始めたアルバイトで、たくさん仲間が増えました。



大学2年生

大学生活と僧侶になるための教習を並行。寺院に生まれた自分と同じ境遇の学生がたくさんいるので、相談することができ心強かったです。



大学3年生

3年次から始まったゼミは、学生3名と先生の4人。最少人数でしたが、みんなと距離が近く、なんでも質問できる快適な空間でした。



大学4年生

卒業論文では「女人往生」を現代問題と照らし合わせて追究しました。ゼミ代表で卒論中間発表に立ち、無事完成させることができました。

Careers

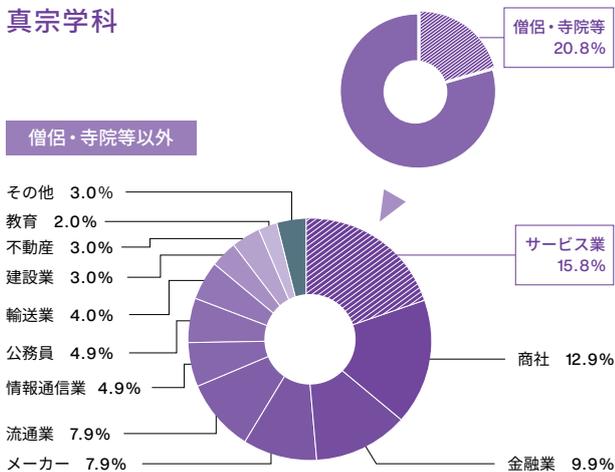
文学部の資格・就職

人文学の深い知識と伝達する力を学修することで、多彩な進路が広がる

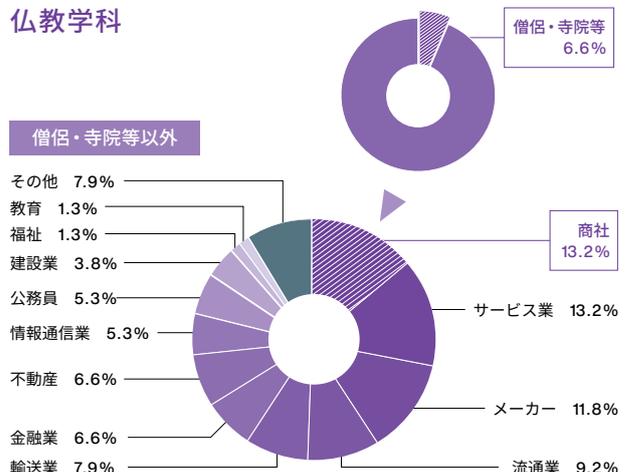
「ことば」に深く関わる人文学を学ぶ文学部は、まずテキストの正確な読解にもとづいた人文学の幅広い知識を育成し、その知識をもとに課題の探究、発見、追究、

就職状況 (2024年3月卒業生)

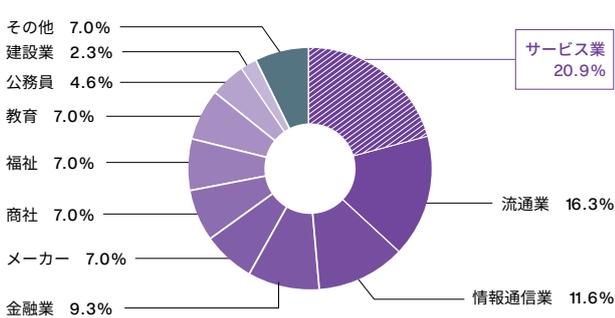
真宗学科



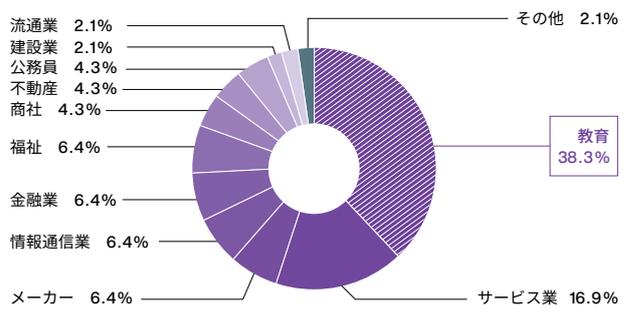
仏教学科



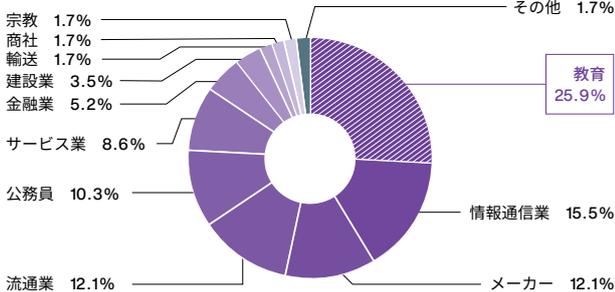
哲学科 哲学専攻



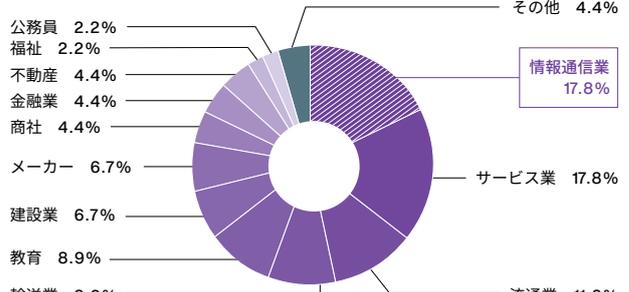
哲学科 教育学専攻



歴史学科 日本史学専攻



歴史学科 東洋史学専攻



資格取得状況

15種類の資格取得のための課程を設置

文学部には15種類の資格取得のための課程があります。4年間で資格を取得するためには、卒業後のビジョンに応じた資格を適切に選択し、綿密な履修計画を立てることが大切です。また、強い意志で履修に臨む学生に向けた支援制度も整えています。

[諸課程]

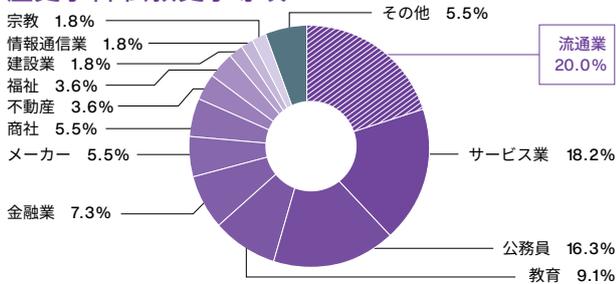
- 教職課程 中学校教諭一種免許状 (● 宗教 ● 社会 ● 国語 ● 英語)
- 高等学校教諭一種免許状 (● 宗教 ● 地理歴史 ● 公民 ● 国語 ● 英語)
- 学校図書館司書教諭課程
- 図書館司書課程
- 博物館学芸員課程
- 社会福祉主事課程
- 本願寺派学階課程
- 本願寺派教師資格課程

解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけます。4年間を通じて、必修科目として演習(ゼミ)を配置し、「読む力」「調べる力」「考える力」「書く力・発信する力」「議論する力」を身につけるのです。また、ことばを正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、他者にもわかりやすく伝達するための方法を修得します。これらの学びで身につけた問題解決法や論理的思考、コミュニケーション能力などは、社会での活躍に資する力となり、多種多様な進路が広がります。

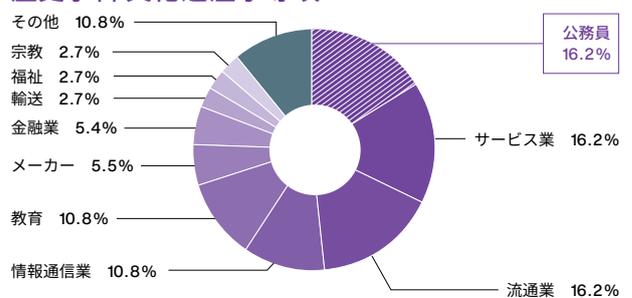
資格・
就職情報



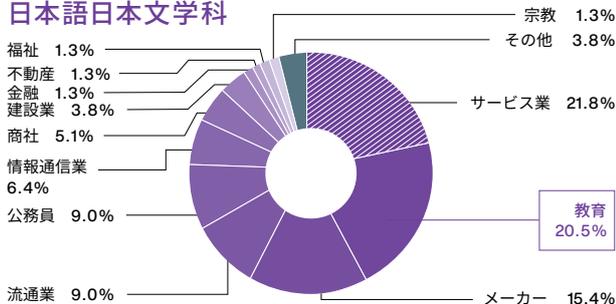
歴史学科 仏教史学専攻



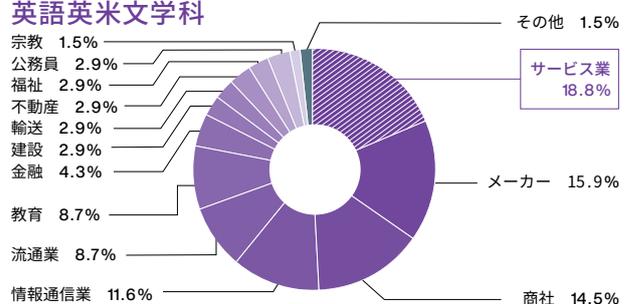
歴史学科 文化遺産学専攻



日本語日本文学科



英語英米文学科



[主な就職先]

学科・専攻を問わず、幅広い業種への就職実績があります。

- 積水ハウス株式会社
- 伊藤ハム株式会社
- 株式会社キーエンス
- タカラスタンダード株式会社
- 株式会社村田製作所
- 山崎製パン株式会社
- コニカミノルタジャパン株式会社
- 株式会社高島屋
- 株式会社ニトリ
- 株式会社京都銀行
- 四季株式会社(劇団四季)
- 富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
- 吉本興業ホールディングス株式会社
- 大阪府教育委員会
- 京都府教育委員会
- 法務省
- 近江八幡市役所(図書館司書職)
- 大阪市役所
- 京都市役所
- 御所市役所(文化財技術職) など

※主な就職先は業種順に記載



堺市役所 内定

読み解く力で市民の声に真摯に耳を傾ける

数多くの資料を読み解くなかで培われた能動的な思考力は、自身のキャリアを考える際に役立ちました。学内の公務員講座での公務員特有の面接対策も、本番で大変参考になりました。幅広い世代の市民の声から正確に情報を読み取り、信頼される職員をめざします。

山口 智愛さん

仏教学科 4年生
(大阪府立岸和田高等学校 出身)



東京地下鉄株式会社(東京メトロ) 内定

論理的思考と多様な視点で、安全を提供する

歴史学科で培った情報処理能力と論理的思考が、就職活動での企業研究に役立ちました。また、ディベート形式の講義では「相手の立場で物事を考える力」も身につきました。首都圏の交通インフラを支える東京メトロで、安全と確かなサービスを提供する乗務員をめざします。

稲岡 賢信さん

歴史学科 東洋史学専攻 4年生
(兵庫県立明石南高等学校 出身)



三井住友信託銀行株式会社 内定

相手に寄り添う共感力で、お客さまの支えに

サークルやゼミ活動で仲間と協力して一つのことをやり遂げた経験から、コミュニケーション力と共感力が向上しました。高いコミュニケーション力は、就職活動でも大きな強みとなりました。お客さまに寄り添い、人生のパートナーとなる銀行員をめざします。

三谷 彩美さん

日本語日本文学科 4年生
(東京都 武蔵野大学高等学校 出身)

大宮キャンパス

京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1
Tel 075-343-3317 let@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR 「大阪」駅 → 約38分

JR 「天王寺」駅 → 約52分

近鉄 「奈良」駅 → 約54分

JR 「三ノ宮」駅 → 約60分

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一步を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 文学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.let.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2025年4月発行